



## クリスマス・新年のご案内

皆さまクリスマスおめでとうございます！

新しい教会堂でのクリスマスも6年目。今年も共にイエス様のご降誕を喜びましょう♪

### ークリスマス主日礼拝・祝会ー

**12月22日(日) 10時30分～**

礼拝の後に食事を持ち寄って祝会を行います！ 食事代 500円

### ー燭火礼拝(キャンドルサービス)ー

**12月24日(火) 19時30分～**

イエス・キリストのご降誕を祝い、ろうそくに火を灯して礼拝を行います。

クリスマスメッセージ：奥田 知志 牧師(当教会牧師、NPO 抱樸理事長)



### ー元旦礼拝ー

**1月1日(水) 11時～**

新年を教会で迎えましょう！新しい一年も教会から始めましょう！

### ー新年礼拝ー

**1月5日(日) 10時30分～**

新年最初の主日礼拝にも、ぜひどなたもご参加ください。



クリスマスエッセイ「ダメだけど、そんなこともある」  
ークリスマスの街角でー

牧師 奥田知志

大阪の釜ヶ崎は、僕にとっては「原点」のような町。一八歳で大学に入り初めての独り暮らしが始まった。親元を離れて「自由になった」という解放感もあったが、それ以上に「孤独」が僕を試みた。そんな時に出会ったのが釜ヶ崎だった。ここで人の限界と温もりを知った。日本最大の寄せ場、日雇労働者の町。八〇年代の釜ヶ崎は、活気にあふれていた一方で路上には多くの人々が寝ておられた。

時折「社会勉強」と称して日雇い仕事にも行った。しかし、所詮「もぐりの学生」に過ぎず、現場では全然役に立たなかった。スコップの使い方ひとつわからない。「学生！邪魔だ、あっちに行つてろ！」。おやじさんに怒鳴られる。「土方のプロ」は違う。丸いスコップで四角い穴が掘れる。僕には全くできなかった。仕事が終わる帰りの車の中で、さっき怒鳴られたおやじさん(その現場の班長)から日当をもらう。「学生、お前全然ダメだけど、また来いよ」と声がかかる。この一言で救われた気がした。

先日、釜ヶ崎で会議があった。コピーをするためにコンビニに入った。僕のすぐ後に少々お酒の匂いがあるおやじさんがフラフラと店内に入ってきた。なんと、レジ前あたりで「ペッ」と口の中のものをついた。店は大混乱。「何すんねん！おじさんアカンがな、そんなことしたら!!」。店員一同レジから飛び出しおやじさんを囲み始めた。どうなるんだらうか。割つて入ろうかと思案していると、ひとりの店員は実に手際よく(慣れている?)床を掃除し始めた。店長らしい人は、そのおやじさんの腕を抱えながら買い物を手伝っている。そして、会計を済ませたおやじさんは店長に「おつちゃんアカンでほんまに、おおきに」と見送られた。「アハハ」と笑い片手を上げて店を後にするおやじさん。なんだか、胸が熱くなった。懐かしい感じがした。

「ダメ」なことを「いい」とは言えない。「アカン」ことは「アカン」。でも、ダメだけど「そんなこともある」のが人間。釜ヶ崎には、そんな人間の弱さ(現実)がどこか共有されているような「空気」が残っている。それは「あきらめ」に近いかも知れない。自分も含め人間に対する「あきらめーそんなこともある」がまず供給される。社会には、そんな空気が必要だと思う。

クリスマスは、救い主がこの世に来られた日。それは、僕らが「いい子」だったからでは決してない。「ダメでアカン存在」であることを承知で救い主は来る。「そんなこともある、が、もうするな」と言うために救い主は来た。それは確かに「あきらめ」ではあるが、その受容がなければ、人は新しい一歩を踏み出せない。「ダメだけど、そんなこともある。だから生きる。もうするな」。今年もクリスマスを迎える。

# 教会バザーへのご協力、ありがとうございました！

今年も11月23日に恒例の教会バザーを大盛況のうちに行うことが出来ました。みなさまのあたたかいご支援と献品をいただきありがとうございました。ご来場くださったみなさまにもここに謹んでお礼申し上げます。今後とも地域に開かれた教会として活動していきたいと思っております。

なお皆様にご協力いただいた収益の中から、次の団体等に寄付をお届けします。

- |                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1、共生地域創造財団（東日本大震災・西日本豪雨被災地支援）         | 2、NPO 法人抱樸（困窮者支援）   |
| 3、ペシャワール会（アフガニスタンにおける医療活動支援）          | 4、PHD 協会（アジアとの交流支援） |
| 5、久山療育園パプテストコロニー・太陽パン（「障害」者支援）        | 6、キリスト教海外医療団（JOCS）  |
| 7、佐々木さんを支援する会（アフリカ ルワンダにおける和解のプロジェクト） |                     |
| 8、ミンダナオ子ども図書館（フィリピン・ミンダナオ島紛争被害児支援）    |                     |
| 9、東八幡キリスト教会の働きのために（新教会堂建築費用として）       |                     |

来年も教会バザーを開催する予定です。どうか、この働きをおぼえて、お支え下さいますように。来年に向けて献品の品々を少しずつご準備くだされば大変助かります。来秋、ご案内チラシが参りましたらどうかよろしくお願ひします。



## 2019年の活動ダイジェスト

### ① 7月14日 荒生田塾 田口ランディ講演会

今年の荒生田塾講演会には、作家の田口ランディさんが来てくださいました。「引きこもりか、立てこもりか。」というタイトルで、否定的にのみ捉えられがちな「引きこもり」を、ご自身の経験を踏まえつつ、積極的に受け止めていく視点を与えてくださったランディさん。ご家族のことを涙ながらに語られる姿に、参加者の中にも涙を抑えることのできない方々が多くおられました。



### ② 10月19日 沢知恵ピアノ弾き語りコンサート

#### 「すべての人のために—そういうものに私はなりたい」

5年連続5回目となる今年は、沢さんワールドをじっくり、たっぷり堪能することができました。7月に発売されたばかりの新作〈雨二モマケズ〉から、宮沢賢治の有名な詩に沢さんが曲をつけたタイトル曲はもちろん、自作曲、カバー曲とりまぜながら存分に聴かせてくださいました。最後は97年に発表されたオリジナルソング《ザ・ライン》。分断が進む現代社会でもっと多くの人に聴いてもらいたい、聴いてもらうべき歌でした。また来年もお願いします！

### ③ 10月20日 「軒の教会」5周年記念 教会建築シンポジウム 手塚貴晴・由比 講演会

コンサートの翌日、東八幡キリスト教会の新教会堂が建てて5周年を記念して教会建築シンポジウムが開催されました。「軒の教会」と親しまれるようになった新教会堂。設計してくださった手塚ご夫妻、施工してくださった東建設の東会長と東社長も参加して下さり、この建物にどんな思いが込められているのか、どのような役割が期待されているのか、さまざま語られました。いまだに全国からの見学者が絶えない軒の教会。素晴らしい建物が与えられたことに改めて感謝するひとときとなりました。



## 礼拝動画ウェブ配信「星の下」プロジェクト

「軒の教会の上には 空が広がっています  
この空は きっと あなたの住む町にもつながっています  
たとえ今は一人でも 同じ星を見上げているかもしれません

### 星の下@東八幡教会

ここは誰でも集うことのできる みんなの居場所です  
会員登録・詳細は、次のURLより。 <https://hoshinoshita.info/>



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40 電話/FAX 093 (651) 6669

Email: [higashiyahata.ch.1955@nifty.com](mailto:higashiyahata.ch.1955@nifty.com) ホームページ: 「東八幡キリスト教会」で検索

牧師: 奥田 知志 石橋 誠一 協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生

